



ペースメーカーの手術を受けることになりました。
今後、MRIなどの検査はできなくなるのでしょうか？

ペースメーカーとは

ペースメーカー本体（制御器）とこれに接続したリード（細い電線）を組み合わせたものです。電線の先端を心臓に取り付けることで、心臓の電気信号を24時間監視します。

基本的には心拍の遅い病気の人が使用します。最低限の心拍を維持できないときには、ペースメーカー本体から心臓に電気刺激が伝わることで心臓が一定のリズムで拍動します。本体の電池寿命は約5～7年です。

MRI検査とは

広報くらて令和6年2月号の「調子はいかが？」でも紹介しましたが、強力な磁石と電磁

波を使用して検査を行います。

体の様々な方向（縦・横・斜め）の断面を画像で表示します。X線を使わないため、被ばくの心配はありません。

ペースメーカーが入っているMRI検査ができない？

MRI検査は強力な磁石と電磁波を使うため、事故には注意が必要です。事前に問診などにより十分な確認を行います。ペースメーカーを植込むと基本的には検査ができません。強力な磁場により本体やリードが発熱する、不必要な電気刺激により危険な不整脈が発生するなどの可能性があるからです。

MRI検査ができる ペースメーカーが登場

近年では、MRI検査ができるペースメーカーが主流となってきました。本体とリードの両方がMRIに対応していることが絶対条件ですが、その他にも細かな条件が決まっています。（認定を受けた病院であること、専門医の診察を受けて検査可能か判断することなどです。）

また、ペースメーカー植込み時にもらう「ペースメーカー手帳」と「MRI対応カード」もMRI検査時には必要となりますので、紛失しないようにしてください。

ただし、事故を防ぐために緊急検査は行えません。

最後に

令和6年6月にくらて病院は認定を受け、ペースメーカー患者のMRI検査が可能となりました。診断のためMRI検査が必要と判断された場合、ご自身のペースメーカーがMRI検査可能かどうか主治医にご相談ください。



【アドバイザー】

高田可南子・たかたかなこ・平成14年岐阜医療技術短期大学卒業
平成14年より小倉記念病院勤務。平成31年よりくらて病院勤務。診療放射線技師

ペースメーカーを植込むと基本的にはMRI検査はできません。ただし、ペースメーカー本体とリードの両方がMRI対応の場合は、認定を受けた病院で専門医の許可が必要等の条件はありますが検査可能です。

